

Minami Kyushu University Syllabus										
シラバス年度	2022年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス	開設学科		食品開発科学科			
科目名称	園芸療法論					授業形態		講義		
科目コード	301500	単位数	2単位	配当学年	1年	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	林 典生									
授業概要	<p>医療・保健・福祉・生涯学習の現場で、園芸療法・福祉の実践を行ってきた経験に基づいて、幅広い教養と専門性を持ち、一緒に問題解決を行える人材を育てるために必要な以下の内容の講義を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 園芸療法とはガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことが目的である。 その目的を達成するためには、子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わずに活動実践を行うことが必要であり、対象となる人々の理解やそれを取り巻く環境および支える制度等を理解した上で、実践できる。 これらの人に関わることを理解した上で、ガーデニング活動も含む園芸活動を行う上で注意すべき点等も含めた活動の流れを理解した上で、活動打ち合わせ・準備から片付け・振り返りまで実施できる。 実際にガーデニング活動も含めた園芸活動を地域社会で実践して、参加者からの反応や受講生同士の振り返りの中で、客観的に自己評価できる。 									
関連する科目	園芸療法実習を履修する場合は必ず履修すること。 また、環境園芸学科・食品開発科学科の学生は地域特産ブランド開発論の履修が望ましい。									
授業の進め方 と方法	<p>授業開始前に毎回のレポートを提出した後、授業開始後10分間は授業開始前の小テストを実施する。その後授業開始前の小テスト、毎回のレポートならびに前回の授業終了後の小テストの解説を授業内容と関連付けて行う。授業を実施し、授業終了10分前に次回提出するレポート課題を説明し、授業終了後の小テストを実施する。</p> <p>4日×4回の計16回（テスト1回含む、冬休みの集中講義期間予定）にて実施する。</p> <p>対面形式実施の場合、第4・8・12回にワークショップを実施し、それに基づいて中間レポートテストを実施する（オンライン形式実施の場合、別途事前にユニバーサルパスポートで資料等配布・アナウンスの上、実施する）。</p>									
授業計画 【第1回】	<p>園芸療法とは何か 実践を踏まえて紹介 日本における園芸療法等の取り組み実践紹介を行う。</p> <p>参考文献の一例：公益社団法人東京都社会福祉士会監修 ソーシャルワークの理論と実践の基盤 へるす出版 2019、公益社団法人日本医療社会福祉協会・公益社団法人 日本社会福祉士会編 医療保健ソーシャルワーク アドバンスと実践のために 中央法規 2017</p>									
授業計画 【第2回】	<p>活動現場で実践する上で注意する点 利用者本位に関する理解 活動現場で行う上での注意点について説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：山口洋史・伊藤一雄・福本幹雄編 福祉への道標 教職のための社会福祉 サンライズ出版 2006、東京都社会福祉協議会編著 介護等体験マニュアルノート 東京都社会福祉協議会 2020</p>									
授業計画 【第3回】	<p>子どもの園芸療法 重度重複しょうがいも含む発達しょうがい児を事例に 子ども家庭支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：安部計彦・加藤曜子・三上邦彦編著 ネグレクトされた子どもへの支援 理解と対応のハンドブック 明石書店 2016、柏女霊峰編著 子ども家庭福祉における地域包括的継続的支援の可能性 福村出版 2020</p>									
授業計画 【第4回】	<p>しょうがいの園芸療法 精神しょうがい当事者活動を事例に しょうがい者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：藤井克徳・星川安之著 障害者とともに働く 岩波書店 2020、日本職業リハビリテーション学会編著 障がいのある人の就労支援のために職業リハビリテーションの理論と実践 中央法規 2012</p>									
授業計画 【第5回】	<p>高齢者の園芸療法 認知症高齢者のケアを事例に 高齢者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：黒田研二・藤井博志編著 介護予防大作戦 地域で進める介護予防 中央法規 2002、ニッセイ基礎研究所編著 認知症ライフサポート研修テキスト 中央法規 2015</p>									
授業計画 【第6回】	<p>地域社会の園芸療法 高齢者・子育てサロン活動を事例に 地域福祉分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：全国社会福祉協議会編著 概説社会福祉協議会 全国社会福祉協議会 2021、中島修・菱沼幹男編著 コミュニティソーシャルワークの理論と実践 中央法規 2015</p>									
授業計画 【第7回】	<p>生活困窮者の園芸療法 子どもの貧困等を事例に 生活困窮者支援における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：奥田知志・原田正樹編 伴走型支援 新しい支援と社会のカタチ 有斐閣 2021、社団法人日本社会福祉士会編 ソーシャルワーク支援に基づく就労支援実践ハンドブック 中央法規 2010</p>									
授業計画 【第8回】	<p>園芸療法の全体的な流れ 特別支援教育での活動を事例に 園芸療法プログラム作成・実施に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：星山麻木編著 障害児保育ワークブック 萌文書林 2012、全国特別支援学校長会 編著 特別支援学校のすべてがわかる教員をめざすあなたへ ジアース教育新社 2017</p>									
授業計画 【第9回】	<p>コミュニケーション しょうがい者支援機関におけるソーシャルスキルトレーニングを事例に 園芸療法活動に必要なコミュニケーションに関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：伊藤絵美・向谷地生良編著 認知行動療法、べてる式 医学書院 2007、北岡祐子著 仕事だいじょうぶの本 ペンコム 2021</p>									
授業計画 【第10回】	<p>構造化 自閉性しょうがい児の支援機関の取り組みを事例に 園芸療法活動に必要なマネジメントに関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：水野敦之著 フレームワークを活用した自閉症支援 エンパワメント研究所 2011、今本繁 自分を変えたい人のためのABCモデル ふくろう出版 2020</p>									
授業計画 【第11回】	<p>学校と園芸療法 各地域の取り組みを紹介しながら 若者支援分野における園芸療法実践に関する説明を行う。</p> <p>参考文献の一例：岡部茜著 若者支援とソーシャルワーク 法律文化社 2019、山野則子・野田正人・半羽利美佳編著 よくわかるスクールソーシャルワーク ミネルヴァ書房 2012</p>									

授業計画 【第12回】	刑余者支援と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら 司法分野における園芸療法実践に関する取り組みの説明を行う。 参考文献の一例：千葉県社会福祉士会・千葉県弁護士会編 司法ソーシャルワークの実務 日本加除出版 2018、掛川直之・飯田智子 編著 出所者支援ハンドブック 旬報社 2022
授業計画 【第13回】	多文化共生と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら 多文化共生分野における園芸療法実践に関する取り組みの紹介を行う。 参考文献の一例：日本社会福祉士会編 多文化ソーシャルワーク 中央法規 2012、レナドミネリ著 グリーンソーシャルワークとは 何か環境正義と共生社会実現 ミネルヴァ書房 2017
授業計画 【第14回】	災害支援と園芸療法 各地域での取り組み事例を紹介しながら 災害支援分野における園芸療法実践に関する取り組みを紹介を行う。 参考文献の一例：立木茂雄著 誰一人取り残さない防災に向けて、福祉関係者が身につけるべきこと 萌書房 2020、日本社会福祉士 養成校協会編 災害ソーシャルワーク入門-被災地の実践知から学ぶ 中央法規 2013
授業計画 【第15回】	園芸療法のトピックス 地域共生社会づくり・農福連携と園芸療法との関連性について 地域共生社会づくり・農福連携に関する取り組み紹介を行う。 参考文献の一例：公益社団法人日本社会福祉士会編 地域共生社会に向けたソーシャルワーク 中央法規 2018、公益社団法人日本社 会福祉士会編 マクロソーシャルワークの理論と実践 中央法規 2018
授業の到達目標	子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わず誰もがガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信に つなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを行うことを理解できる。【専門分野の知識・理解】【専門分野のスキル】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)
授業時間外の学修 【予習】	毎回の授業終了時に、事前に課題を提出するので、まとめたレポートを作成する(目安時間は30分以内)。
授業時間外の学修 【復習】	また、授業終了後に授業内容に関する課題を提出するので、それを調査し考えたことをまとめたレポートを作成する(目安時間は30分以 内)。
課題に対する フィードバック	毎回の小テストおよびレポートは各授業中に解説を実施するとともに、テストはテスト終了後に解説を実施する。
評価方法・基準	事前課題 3テーマ×5点 計15点、 授業開始前後の小テスト 15回×2点 計30点、 中間レポートテスト3回×10点 計30点、 テスト (4テーマのうち3テーマ×5点は授業中に提示・事前準備、1テーマ×10点はテストの時に提示) 計25点、 合計100点で成績評価を行う。 但し、期末テストはレポート形式で実施する場合あり。 テストは自筆ノート・プリントのみ持ち込み可。 なお、遅刻・早退や激しい私語等授業態度が悪い場合は本人に伝えた上で減点する。
テキスト	授業で使用するプリントを配布し、それに基づいて授業を実施する。
参考書	Horticulture as Therapy: Principles and Practice 1998 Sharon Simson, Martha Straus CRC Press (都城キャンパス図書館に所蔵あり) 岡本民夫・田端光美・濱野一郎・古川孝順・宮田和明編 エンサイクロペディア社会福祉学 2007 中央法規 (都城キャンパス図書館に 所蔵あり) 他の参考図書は授業中に紹介いたします。
備考	近畿圏内の複数の医療・保健・福祉・生涯学習の現場での勤務(社会福祉士・精神保健福祉士と中学校・高等学校教員免許に基づい て)やボランティア活動のなかで園芸療法・福祉の実践を行ってきた。現在も都城地区周辺を中心に実践や人材育成を行っており、そ れに基づいて授業内容に反映させる。